



# 広島大学病院の医科歯科連携

広島大学病院主席副病院長  
栗原 英見

1

## 施設、業務の種別の医師数

\* データは平成24年12月31日、診療所数は平成24年3月末

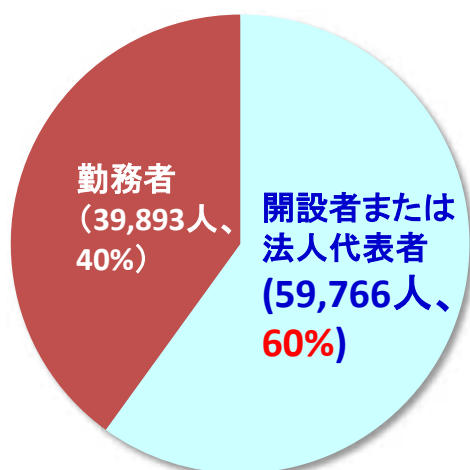
	歯 科		医 科	
医療施設の従事者	99,659	(100%)	288,850	(100.0%)
●病院従事者(人)	12,547	(12.6%)	188,306	(65.2%)
・病院の開設者又は法人の代表者(人)	26	(0.0%)	5,391	(1.9%)
・病院の勤務者(医育機関を除く、人)	2,865	(2.9%)	132,511	(45.9%)
・医育機関附属病院勤務者(人)	9,656	(9.7%)	50,404	(17.4%)
			8,580	
●診療所従事者(人)	87,112	(87.4%)	100,544	(34.8%)
・診療所の開設者又は法人の代表者(人)	59,740	(59.9%)	72,164	(25.0%)
・診療所の勤務者(人)	27,372	(27.5%)	28,380	(9.8%)
診療所数*カッコ内有床	68,450		99,957	(9,931)
1診療所当り(人)	1.27		1.01	
開設者・代表者当り(診療所)	1.14		1.39	

\* 歯科衛生士は診療所当り1.43人

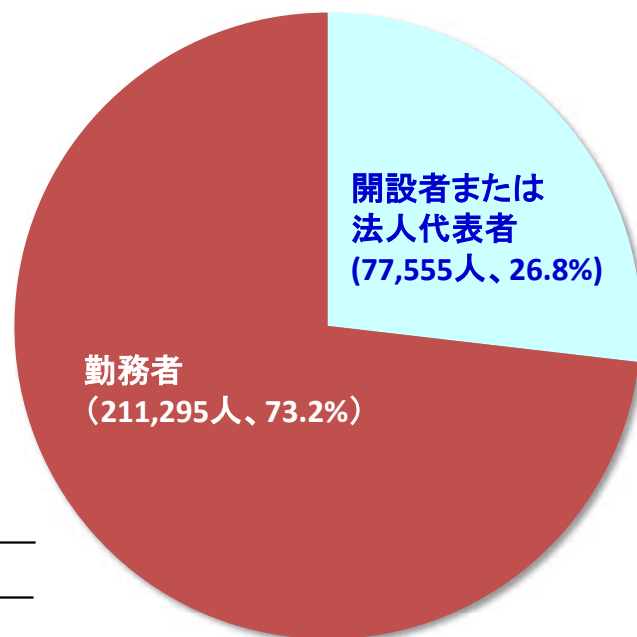
2

# 歯科医師と医師の業務形態の違い

## 歯科医師



## 医師



	歯科	医科
1診療所当り(人)	1.27	1.01
開設者・代表者当り(診療所)	1.14	1.39

- ① 歯科では開設者・法人代表者が60%と多い
- ② 医科の方が診療所のネットワーク化が進んでいる？

→ 歯科は経営の負担が多い

3

## 小規模医療機関(歯科診療所)問題

1. 医療安全の確保 → 感染予防対策、医療事故防止
2. 医療倫理の担保 → 第三者的な評価が困難
3. 先進医療の推進/展開
4. 高い専門性の確保 → 専門医の研修/普及が困難
5. 弱い経済的基盤 → 高額機器の購入が困難
6. 診療所の経営者=院長  
→ 経営(財務、労務、人事、マーケティング)に時間が取られる

### 解決策

#### 歯科医療機関の大規模化

- ① 歯科医療機関のネットワーク化・グループ化
- ② 病院歯科の充実(病院に歯科医師の配置を推進、複数配置)
- ③ 歯科総合病院・・・熊本の伊東歯科口腔病院

いずれも、利点欠点があるが、上記6つの問題を改善できる可能性がある。

4

# 解決策②の現状(悩み)

## 第30回日本病院歯科口腔外科協議会総会・学術集会のご案内

第30回日本病院歯科口腔外科協議会総会・学術集会  
会長 澤本佳弘

このたび、第60回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会 大会長の柴田敏之教授の御協力を賜り、第30回日本病院歯科口腔外科協議会学術集會を下記要領で開催いたします。

今年度は第60回日本口腔外科学会総会・学術大会の2日目(10月17日:土曜日)に口腔外科学会・病院歯科口腔外科協議会合同シンポジウム「歯科疾患における機能分化と連携 ~病院歯科口腔外科 未来への切符~」が開催されます。

## 第30回日本病院歯科口腔外科協議会総会

テーマ: プレシンポジウムディスカッション: 1人2人体制の悩みと工夫を語ろう

内容: 1. 1人体制の現状と工夫 (仮題)

県北医療センター高萩協同病院 歯科・口腔外科 野地秀彦 先生

2. 1人体制の中でどのようにレベルアップをはかるか (仮題)

諏訪赤十字病院 特殊歯科・口腔外科 宮澤英樹 先生

3. 2人体制で出来ること、出来ないこと (仮題)

聖霊病院 歯科口腔外科 鶴迫伸一 先生

4. 3人体制となって何が変わったか (仮題)

中東遠総合医療センター 歯科口腔外科 夫才成 先生

お問い合わせ: 〒508-8502 岐阜県中津川市駒場1522 香地の1  
総合病院中津川市民病院 歯科口腔外科  
学術委員長: 青藤昌樹  
TEL: 0573-66-1251 (代表) FAX: 0573-68-0613 (内線)

5

# 解決策③の例 伊東歯科口腔病院 (H24日本歯科医学会総会発表)

口腔外科、歯周病、小児歯科、矯正歯科、一般歯科、麻酔科、  
インプラント、在宅訪問歯科、有病者、障害者歯科



病院長: 伊東隆利  
副病院長: 伊東隆三 後藤俱子  
顎・顔面・歯列矯正センター長: 伊東隆三  
麻酔科医師・歯科麻酔指導医: 後藤俱子  
歯科診療部部長: 井原功一郎 國芳秀晴 篠原直幸  
医局長: 井口佳大  
副医局長: 川鍋仁、中井大史  
事務局長: 江崎公  
総務部長:

常勤歯科医師: 23名  
医師: 1名  
歯科衛生士: 48名  
歯科技工士: 10名  
看護師: 19名  
薬剤師: 1名  
受付事務: 16名  
秘書: 1名  
給食(栄養士・調理師): 3名  
放射線技師: 1名

地方都市にこのような拠点となる歯科病院が必要!  
(歯科大学、歯学部附属病院の無い県)

6



総合内科・総合診療科  
 感染症科  
 脳神経内科  
 脳神経外科  
 精神科  
 脊椎・脊髄外科  
 眼科  
 耳鼻咽喉科  
 呼吸器内科  
 呼吸器外科  
 循環器内科  
 心臓血管外科  
 消化器・代謝内科  
 消化器外科  
 移植外科  
 内分泌・糖尿病内科  
 乳腺外科

小児血管腫瘍科  
 血液内科  
 皮膚科  
 整形外科  
 形成外科  
 麻酔科  
 リウマチ・膠原病科  
 腎臓内科  
 泌尿器科  
 婦人科  
 放射線診断科  
 放射線治療科  
 新生児・小児科  
 小児外科  
 産科  
 救急科  
 がん化学療法科

口腔総合診療科  
 口腔健康科  
 矯正歯科  
 小児歯科  
 障害者歯科  
 歯科保存診療科  
 歯周診療科  
 インプラント診療科  
 咬合・義歯診療科  
 顎・口腔外科  
 口腔顎顔面再建外科  
 歯科放射線科  
 歯科麻酔科

特殊歯科総合治療部  
 地域連携歯科医療部  
 歯科技工室  
 歯科衛生室  
**口腔検査センター**  
 あんしん歯科治療室  
 口腔インプラントセンター

歯科チェアユニット数:93台



病床数 746床  
(一般:724、精神:20、感染症:2)

外来患者数(1日平均):医科 1,849人、歯科:540人



## 歯科の専門性生かし 連携進める

主席副病院長  
栗原 英見

歯科領域の診療分野では3つの「連携」をテーマに取り組んでいます。「歯科の各診療科の連携」、「医科との連携」、「病院の外との連携」の3つです。歯や口腔の病気は全身の病気と密接な関係があることが明らかになってきました。歯周病と糖尿病がその代表例です。手術前後やガン治療における口腔ケアの重要性も注目されています。また、全国的にも数少ない口腔検査センターを中心に科学的根拠に基づいた治療を提供しています。地域の医療機関ともしっかりと手を携えながら、体にも心にも優しい先進的な歯科医療を提供してまいります。



## 病院歯科の代表として 広島大学病院の歯科を紹介

医科:34診療科  
歯科:13診療科

### 歯科領域の運営方針:3つの「連携」

1. 歯科の各診療科の連携
2. 医科歯科の連携
3. 地域医療機関との連携

# 病院の管理運営

## ●医療安全管理部

### ・医療事故防止対策

インシデント分析に歯科医師が参加  
診療科を代表するリスクマネージャーが管理に参画

### ・感染予防対策

ICD資格を持った歯科医師の参加  
歯科衛生士の参加  
歯科外来診療室の代表として感染対策実践者を置き、管理に参画

## ●職員研修会

歯科からの発信・・・歯周病、口腔ケア  
医科から歯科へ・・・口腔ケアに関連する疾病を専門医の講演で研修

## ●エイズ医療対策室

## ●集中治療病棟部

## ●栄養サポートチーム

9

# 医療安全職員研修会 歯科からの発信

## 1) 全職員必修研修会

### ●院内感染防止対策研修会

2015.6.29 452名参加

**第1回 院内感染防止対策研修会**

皆さんは歯科受診していますか？ ※全職員必修

口の中の細菌をコントロールすると、色々な感染症が予防できます。本研修では、口腔内の細菌と感染予防についてご講演いただきます。

多くの参加をお待ちしております。

記

開催日：平成27年6月29日(月)  
時間：17:45～18:30  
場所：医学部第5講義室(第4講義室中継)

**口腔内細菌コントロールによる感染予防**

口腔総合診療科 診療講師  
連携口腔サポートチーム 副代表 西 裕美 先生

当日は、職員型により受付を行いますので、必ず職員証をお持ちください。  
専門業務担当業務時間以外の職員の方が参加される場合、労働時間となるか否かは  
所属する労働時間管理室の判断になります。

医療安全管理部 感染管理室

### ●医療安全管理職員研修会

2012.2.9

医療安全管理研修会  
2012.02.09

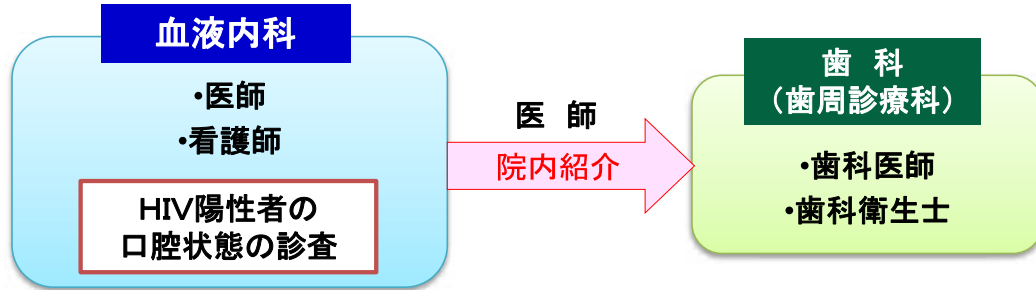
**連携口腔ケア**  
連携口腔ケアサポートチームの稼働と今後

口腔総合診療科 西 裕美

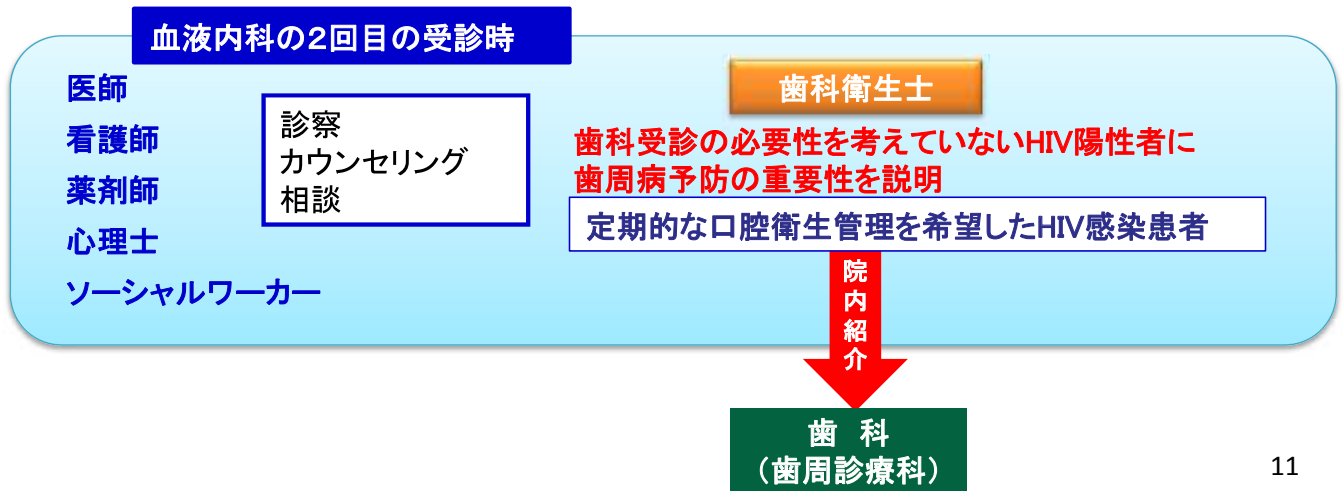
10

# HIV感染者の医科・歯科連携

## 1. 医科から歯科への紹介(通常ルート)



## 2. 歯科医療従事者による積極的介入(押し掛け説明)



11

# 広島大学病院歯科受診のHIV陽性者(平成25年)

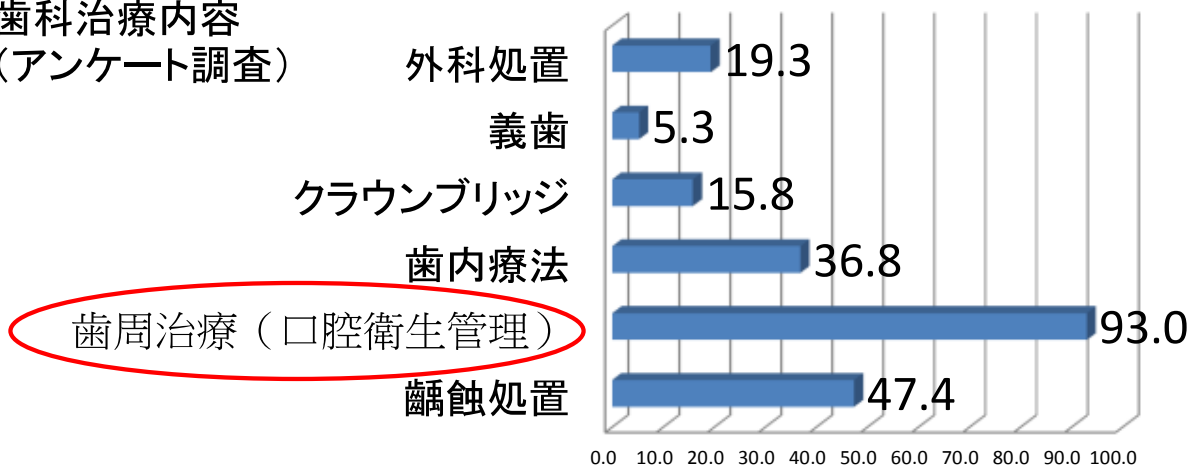
## 1. 歯科受診者数

実人数:57人

延べ人数(受診回数):431回

平均受診回数: 7.6 回/人

## 2. 歯科治療内容 (アンケート調査)



割合(%)

\* 複数回答あり

12

## ▽虫歯や炎症、継続的に予防

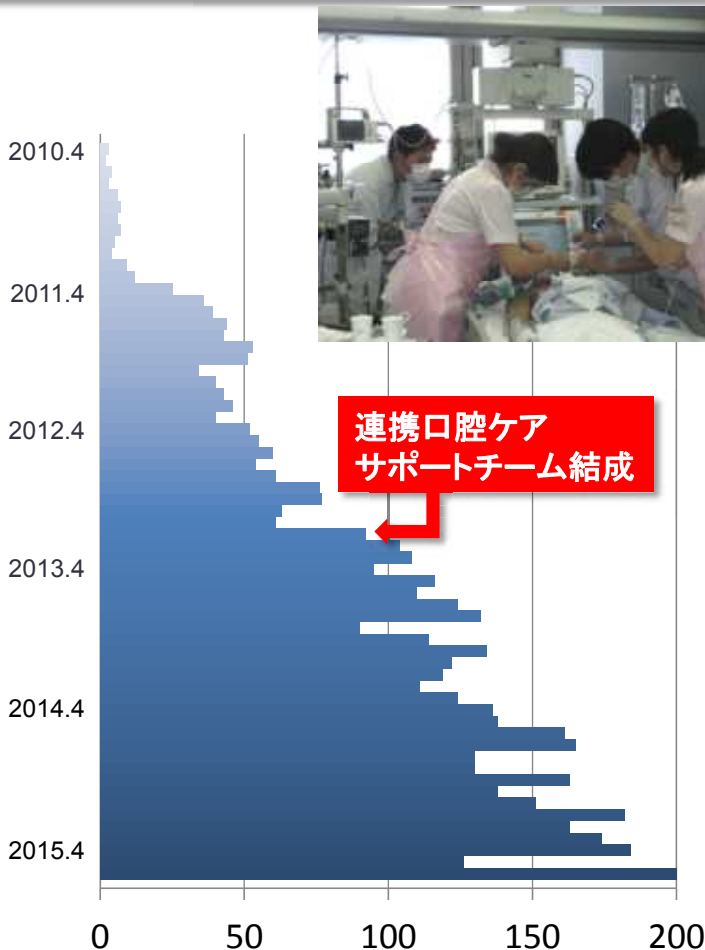
広島大病院（広島市南区）は今月から、がん患者たちの口内のケアを支援する「連携口腔（こうくう）ケアサポートチーム」を発足させた。口腔内の感染症を予防し、患者の生活の質を高めるのが狙い。がん患者は抗がん剤や放射線治療などで免疫力が落ち、口内の細菌が繁殖しやすい。虫歯や口内炎を発症したり、肺炎等の合併症を起こしたりする可能性が高いため、歯石や細菌を除去するケアが重要という。



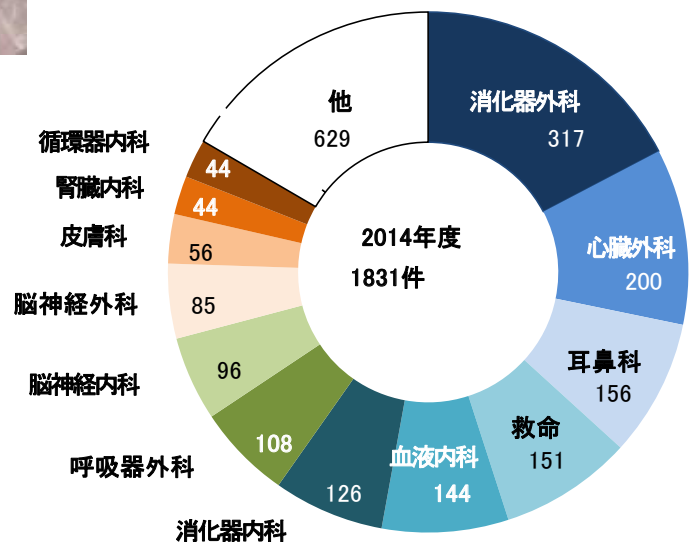
同病院はこれまで入院患者を対象に、手術前後にケアをしてきた。術後、口内の痛みで食事ができず、より免疫力が落ちる事態を防ぐためだったが、退院後までケアが行き届かない課題があった。

新チームは、医師と歯科医師、歯科衛生士、看護師たち約10人でつくる。病院内の医科・歯科の連携強化に加え、地域の歯科医師とのつながりを深め、継続的なケアができる態勢づくりを進める。中心メンバーとなる同病院口腔総合診療科の西裕美助教は「口の中への関心を患者さんにも持ってほしい、いい状態を保てるようにしたい」と話している。

## 連携口腔ケアサポートチームの実績



紹介元診療科別（2014年4月～2015年3月）



# 口腔ケア：対象疾患のセミナー（2013年5月～）

医歯連携患者へのより効率的な治療支援／歯科領域スタッフのレベルアップ

## 耳鼻咽喉科

1. 気管切開
2. 誤嚥



## 血液内科/輸血部

3. 血液疾患基礎知識
4. 骨髄腫・リンパ腫
5. 出血性疾患
6. 血液疾患の移植



## 消化器外科

7. 食道疾患
8. 胃疾患



100名程度の参加  
(病院外10～20名)

15

# 他職種との連携推進・効率的な治療支援を目指して

歯科の情報を医師・看護師等と共有

## 部門毎研修会

●医局  
(主に医師)



腫瘍外科      心臓血管外科      ...

2010年9月頃～ ほぼ全ての診療科に、  
診療科毎の内容で研修会実施

●病棟  
(主に看護師)

依頼があった病棟から、研修会を実施中



整形病棟      救命病棟      ...

16



# 広島大学病院 口腔ケア実習(職員研修会)

● 2012年10月 院内職員対象(看護師、歯科医師、歯科衛生士) 参加者数 132名



● 2015年3月 院内・院外(歯科医師会会員、広島歯科医療安全支援機構) 参加者数 222名



17

## 摂食・咀嚼サポートチーム/NST

- ・医師／看護師
- ・歯科放射線科歯科医師
- ・歯科補綴科歯科医師
- ・特殊歯科総合治療部 言語聴覚士



# 手術支援: 歯科技工部門

## 1) 手術支援模型

- ・CTあるいはMRIの画像データ
- ・3Dプリンターで立体模型構築



3D プリンター

### 適応手術

- K132 椎弓形成手術
- K136 脊椎, 骨盤悪性腫瘍手術
- K142-2 脊椎側彎症手術
- K151-2 広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術
- K162 頭皮, 頭蓋骨悪性腫瘍手術
- K180 頭蓋骨形成手術
- K228 眼窩骨折整復術
- K236 眼窩悪性腫瘍手術
- K237 眼窩縁形成手術(骨移植によるもの)
- K313 中耳, 側頭骨腫瘍摘出術
- K314の2 中耳悪性腫瘍手術(側頭骨摘出術)
- K406の2 口蓋腫瘍摘出術(口蓋骨に及ぶもの)
- K427-2 頬骨変形治癒骨折矯正術
- K434 顔面多発骨折観血的手術

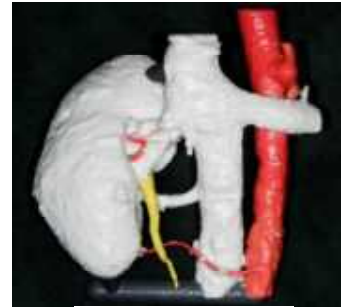
主に整形外科分野、脳神経外科、耳鼻咽喉科



頭蓋骨



大腿骨骨頭部



軟組織・臓器

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H26年度	7	8	16	16	13	7	11	11	8	11	10	8	126

## 2) 経口挿管麻酔時の前歯のプロテクター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H26年度	11	7	12	17	8	12	12	9	6	6	14	8	122

19

# 口腔検査センター

### 1. シェーグレン症候群診断のための口腔検査

- ・連携診療科: リウマチ・膠原病科
- ・連携内容: シェーグレン症候群の確定診断に必要な口腔検査(唾液分泌量測定(ガムテスト・サクソテスト)および口唇生検)を行い、診断。

### 2. 金属アレルギー患者の口腔内金属元素分析

- ・連携診療科: 皮膚科(院内)、(院外)稲田皮ふ科、細川・内藤医院
- ・連携内容: 難治性皮膚疾患で金属アレルギーを有する患者の口腔内金属元素分析。口腔内金属と陽性金属の関連性と歯科治療計画についての相談。

### 3. 口腔内細菌数

- ・連携内容: 医科・連携口腔ケアサポートチーム。電子カルテ上で情報共有。口腔内の細菌数検査を実施し、口腔ケアの効果判定。毎月約600件実施。



# 口腔がん、口腔外科治療

## 口腔がん治療

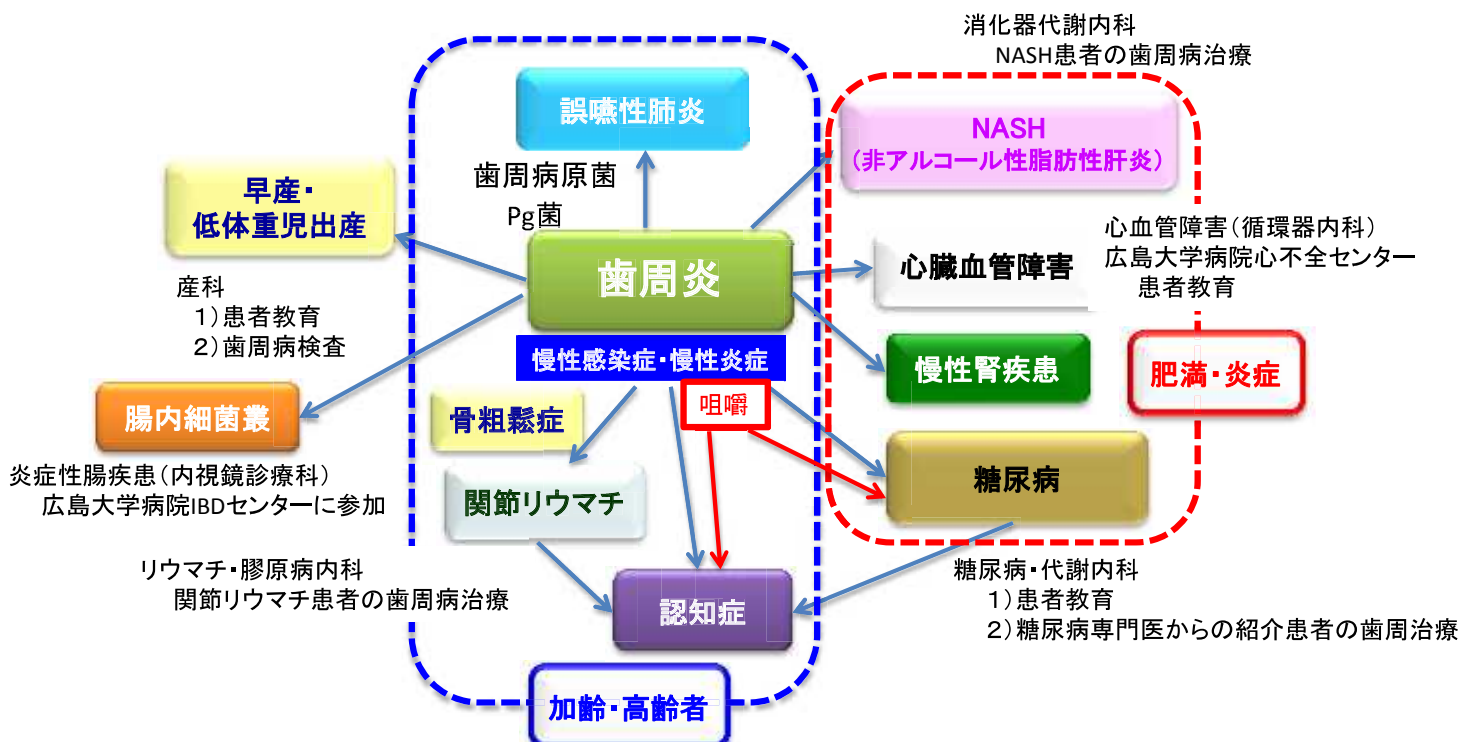
治療内容	連携診療科
口腔癌の放射線治療	放射線治療科
口腔癌の再建手術	形成外科
口腔癌の化学療法	がん化学療法科
口腔癌の超選択的動注	放射線診断科(IVR)
口腔癌の肺転移	呼吸器外科
全麻手術の術後リハビリ	整形外科
術後ICU	医科麻酔科
緩和ケア	精神科

## 口腔外科治療

疾患	連携診療科
多発顔面外傷	眼科・耳鼻咽喉科
血液疾患、悪性リンパ腫	血液内科
天疱瘡、類天疱瘡	皮膚科
重症感染症、MRSA	感染症科
三叉神経痛	脳神経外科
ジストニア	脳神経内科
間質性肺炎、癌性胸膜炎	呼吸器内科
緊急時対応	救急科
上部消化管精査、下部消化管精査	消化器・代謝内科
シェーグレン症候群等 自己免疫疾患	リウマチ・膠原病科
全麻手術の術前検査で異常を認めた場合	関連する診療科（循環器内科、呼吸器内科、内分 泌・糖尿病内科など）
ビスフォスホネート系薬剤投与前歯科的精査	乳腺外科、泌尿器科

21

# 歯周病治療における医科との連携



22

# 矯正歯科・先天性疾患/睡眠時無呼吸症候群

## ●不正咬合を発現する先天性疾患患者

産婦人科:口唇裂口蓋裂などの不正咬合を発現する先天性疾患患者について、出産時に紹介を受け、連携治療を行う。

## ●顎変形症を伴う不正咬合患者

形成外科:顎変形症を伴う不正咬合患者の紹介を受けた場合、術前矯正歯科治療の後、上下顎骨の離断手術を依頼する。

## ●睡眠時無呼吸症候群

耳鼻科:睡眠時無呼吸症候群との診断を受けた患者に対して、互いに連携をとりながらスリープスプリントの作製、調整を行う。

## 周術期口腔ケアにおける地域歯科医療機関との連携

1. 逆紹介患者(医歯連携)の **紹介地域調査**

2. 各地域の歯科医師会と相談

### 今後の課題

3. 各地域に「医歯連携患者受入の核となる拠点病院」設立

4. 各地域歯科医療機関の「専門領域」を生かした地域連携推進

2014年4月～2015年6月  
逆紹介(広大→地域歯科) 2,389件

		コンサル (件)	情報提供 (件)	逆紹介率 (%)
広島市	南区	314	77	25
	西区	236	60	25
	東区	223	67	30
	安佐南区	201	66	33
	中区	189	53	28
	佐伯区	150	40	27
	安芸区	145	41	28
	安佐北区	115	37	32
西部	廿日市市	67	21	31
	大竹市	25	8	32
中部	東広島市	151	33	22
	呉市	115	29	25
	安芸郡府中町	91	21	23
	安芸郡海田町	50	12	24
	安芸郡熊野町	38	14	37
	江田島市	28	5	18
	安芸郡坂町	20	3	15
東部	三原市	59	22	37
	竹原市	30	11	37
	尾道市	19	6	32
	豊田郡	11	3	27
	福山市	9	3	33
北部	三次市	35	14	40
	庄原市	22	5	23
	山県郡	15	8	53
	安芸郡高田市	13	1	8
	世羅郡	11	3	27
	府中市	6	0	0
	神石高原町	1	1	100

# 歯科診療所の医療安全の向上を目指して 広島大学病院の地域歯科医療機関との取組み



標準的口腔管理・感染対策を地域医療機関と共有

25

## 病院歯科は連携によって成立する

### 1. 歯科の各診療科の連携

- ・異なった専門領域の歯科医師が複数いれば必要

### 2. 医科歯科の連携

- ・周術期の口腔ケア、摂食・咀嚼・嚥下における需要が増大
- ・歯科側からの積極的な働きかけ、特に看護師さん
- ・口腔外科専門医だけでなく、歯周病専門医の配置も必要

### 3. 地域医療機関との連携

- ・具体的な連携は地域の医療の特性に合わせる必要がある
- ・歯科医院だけでは無く、個人開業医師との連携を考える

\* 病院歯科は病院収入を上げるためのツールでは無い！

患者に高度で安全性の高い医療を提供するために必須である  
(誤嚥性肺炎の予防、摂食・咀嚼・嚥下の改善、糖尿病等の改善)

26